

平成 26 年度 第 5 回 静岡市市民活動促進協議会 会議概要

- 1 開催日時 平成 26 年 12 月 18 日（木） 午後 7 時 00 分から午後 8 時 30 分
- 2 開催場所 札の辻ビル 5 階 審査会室 3
- 3 出席者 <出席委員>大西会長 山本副会長 井野委員 黒田委員
小林委員 津富委員 原田委員
<欠席委員>遠藤委員、大棟委員、日詰委員 増田委員
<事務局> 秋山市民生活部長 杉山男女参画・市民協働推進課長
長田主幹兼係長 池田主査 平野主事
- 4 傍聴者 なし
- 5 議事
第 3 次静岡市市民活動促進基本計画案について
- 6 会議内容要約
 - (1) 開会 秋山市民生活部長 挨拶
 - (2) 議事

大西会長 挨拶

事務局

議題(「第 3 次静岡市市民活動促進基本計画案について」説明。

大西会長

概要版に対して特段ご要望等あれば、お願いします。

津富委員

以前にも言いましたが、「NPO」という表現は、社団法人とか別の法人格を含む、広い意味でわれていると思うが、「NPO 法人」という表現では、限定的になってしまいます。

市民活動の指標として NPO に限定するのはあまり適切でない。色々な市民活動団体がある事実を踏まえ、全般を促進していくニュアンスの方が良いと思います。

大西会長

指標設定の根拠について、事務局からもう一度、説明をお願いします。

事務局

色々な市民活動団体があることは理解しておりますが、NPO 法人の認証を担当していることもあり、現状では「NPO 法人の数」を指標の根拠とさせていただいています。
(その他の指標の設定根拠についても説明。)

津富委員

静岡市は市民活動団体に「社会法人」を入れて、支援をしていくんですか？
そのことが良く見えないのですか。

事務局

本計画では、「静岡市の市民活動に関わる全ての方」を対象にしていますので、市民活動団体を通じてなど、社会福祉法人や一般財団等も支援の対象になります。

津富委員

「指標」の説明や、「市民活動団体って何」のところ、市民活動について、もっと丁寧に説明すべきだと思います。
NPO が広い意味で使われる言葉であることを我々は理解していますが、世間一般では NPO を NPO 法人のことだと思っている人が多いと思います。

事務局

もう少し丁寧に説明していきます。
「サブタイトル」について、ご意見はありますか。
第1次、第2次ともに「市民活動のすすめ」としています。

津富委員

英語の表記は、いらないと思います。直感的に。

大西会長

英語を入れる特段の理由はありますか。

事務局

絶対では無いです。有る方が良いか、無い方が良いか、アドバイスをいただきたいと思っています。
かしこまったものではなく、中身見てみようかなと開いてくれるようなサブタイトルをつけるつもりでいます。

大西会長

このサブタイトルは概要版だけに付きますか。

事務局

概要版だけです。

原田委員

「市民活動の羅針盤」にすると、意味は通じますが、単語が二つ並んでいて読みにくい気がします。

大西会長

個人的な印象を言えば「ナビゲーション」が良いのでは。
これはカタカナですので、一番硬くないという印象を受けます。

黒田委員

ナビゲーションの方が分るかもしれませんね。
ナビゲーションするならもう少し「具体例」や「感想」などを記載した方が、より市民活動をイメージしやすくなると思います。
全体を通して堅苦しい印象を受けてしまう。

事務局

場合によっては、「市民活動」という言葉そのものも抜いてしまうことも想定できますがいかがでしょうか。

津富委員

この概要版をどういう場合に使うことを想定されていますか。

事務局

例えば、「市政出前講座」といって大学や高校で、市民活動を紹介するときに説明資料として使うことがあります。

また、市民活動センターに設置して、市民活動をパンフレットとしても使用します。

大西会長

計画書そのものだと文字数も多いですね。
なかなか見てもらえない、読んでもらえないこともあるかと思います。
本当に伝えたいところだけを抜粋した形で見てもらうということですね。
これは施策の説明ということですね。計画の説明。

大西会長

いかがでしょうか。今のサブタイトル以外のご意見でも何かございましたら。

黒田委員

指標も数字よりもグラフみたいなのが見てわかりやすいと思います。

津富委員

4ページ柔らかいのには5ページ硬いなと思って。

事務局

今回お示ししたものは、あくまで原稿と言いますか、これを NPO 法人リボングラフィックスと協働してレイアウトやデザインを伝わりやすくなるように調整していきます。イメージの世界観の統一していきます。

山本副会長

協働相手にリボングラフィックスさんを選んだっていうのは「NPO だから」という理由だけではなくて、やっぱりターゲットを広げたいっていう意図がありますよね。

若い方に概要版を手にとってもらうことを狙うのであれば、各ページの記載内容もガラッと変わってくるんだと思います。

津富委員

文章の校正も含め、完全にリボングラフィックスさんに任せるのですか。その方が、おもしろいものができるとおもいますが。イラストだけですか。

事務局

「レイアウト」と「イラスト」だけです。文章は当方の責任校正になります。静岡市で活躍している NPO と協働し、活動を紹介していきたいという意図もあります。

大西会長

例えば、パイロット事業の先程事例を載せということも良いと思いますが、いかがでしょうか。

津富委員

入口のハードルを下げることも重要。先進的な活動ばかりしている NPO ばかり紹介しても、逆に参加を促せなくなるのでは。すごい活動ばかりでなく。

大西会長

協働パイロット事業で採択された協働事業を紹介することも良いと思います。意外性のある協働事業も多いので、見て分りやすい事例を紹介すれば、津富委員がおっしゃった「ハードルを下げる」ということにもつながると思います。

黒田委員

市民活動センターを「みんな楽しんで使っているんだな。」というような雰囲気、伝わる事例も載せた方が、よりイメージが湧くと思います。

表紙に「市民活動ってなに？」を入れることも良いと思います。

「市民活動のすすめ」ちょっと固くて、手に取ってもらえない可能性もあるので。

山本副会長

ブレーストーミング的な話になりますが、表市全体をリボングラフィックスさんにお問い合わせることを考えてはいかがでしょうか。かなり尖ったものができると思います。

津富委員

本当に尖ったものを作るのであれば、中身も全部任せても良いのではないのでしょうか。

山本副会長

じっくり読みたい方は、本書の方を見てくださると思いますし。

井野委員

2点あります。先ず、今回の第3次基本計画は、第2次計画と比較して、「どんなところが変わっているのか」が分らない。

第1次から第2次への経緯も含め、第3次計画を作った方が良いと思います。

2点目は、第2計画の概要版について、これは何部ぐらい作ってどういう所で配って、現時点で何部残っているのかということをお教えください。

概要版は、手に取った人が「市民活動を始めたくなる」様にするべきで、あまり内容を詰め込み過ぎない方が良いと思っています。

事務局

第2次計画の概要版の印刷が3,000部です。配布先は、市民活動センター、生涯学習施設等です。各施設で足りなくなると、補充しています。

現時点で、残は500部程です。

井野委員

私も役人だった時代に自分で県民に向けたパンフレットを作って、余らせてしまった経験があります。

市民の人がすぐ手に取って見ていただけるようなデザインにして、余らせないないようにするため、どうしたらいいか検討してください。

津富委員

相談窓口にいらっしゃった市民の方の市民活動に関する疑問に対し、詳しく説明できるような内容が載っていると良いと思う。例えば「NPOって簡単に作れるの?」といった様な。

井野委員

私の古い経験ですが、「タッチ」という漫画があって、その絵を買って県の防災対策の基礎的な内容で印刷物を作りました。

そうしたところ、中高生位の人たちに人気が出ました。ただ、タッチの絵が出ていたから欲しかっただけで、防災の勉強をしたかった訳ではない様ですが。

時間がたつと人気も落ちてしまいますが、若者に訴えるという意味では、イラストを工夫することも良いと思います。

事務局

手に取っていただける計画書の概要版を目指し、レイアウトとイラストなどのデザインは、イラスト作成等を通して障害者の自立支援を行っている特定非営利活動法人リボングラフィックスさんと協働して進める予定でいます。

井野委員

特に計画書本書の方は、挿絵やグラフを多用して、売り物になるくらいまで、質を高めて行って欲しいと思っています。

黒田委員

「見てみよう」、「参加してみよう」、「企画してみよう」といった様な参加を呼び掛けるのであれば、市民活動の事例を載せた方が良いと思います。

津富委員

4本の柱があるので、柱1本ずつ1ページ使うくらいが良いと思います。

「知らせる」や「深める」といった事例も載せるといった、具体例を示す方が良いと思います。

大西会長

計画書の概要版については、情報量があまり多すぎると当然見難くなります。その辺は難しいジレンマがあるかと思います。

これまでの審議を振り返りますと、概要版ですから、見やすいものになるように、今まで続けてきた協議会の中で色んなアイデアを出していただきました。

例えば Facebook、電子掲示板を作る、インターネットで色々な事例を紹介するなど。

指標についても、「新聞に掲載された市民活動をカウントする」、「静岡市の市民満足度調査を活用する」といった提案もありましたので、計画実施にあたり活かしていただく。

原田委員

山本副会長のご発言にもありましたが、第1次、2次、3次の流れ、つながりについて記載があった方が良いと思います。

また、一番言いたいことを、明確に伝えていった方が良いと思います。

井野委員

活動資金、クラウドファンディングとか、色々な話をさせていただきましたが、それらが計画に反映されてない気がします。

大西会長

反映されていないわけではありません。

計画を進めるための事業の細かい部分について、協議会はアイデアを出しています。

これらを参考にして、計画を策定されます。その過程で、協議会での議論や出されたアイデアが活かされていきます。

山本副会長

指標なんですが、最終到達点を出した根拠はなんですか。

事務局

指標1、2、4については、8年後（平成34年度）の最終到達点を平成25年度の基準年の15%アップで設定しています。これは努力目標の意味を含んでいます。

指標3は、毎年1団体ずつ増やしていき、最終到達点の12団体を設定しています。

また、全ての指標は、中間地点である平成30年度に見直しをかける予定です。

山本副会長

津富委員がおっしゃるようにNPO法人に限らず、いろいろな意味活発になってきたのは津富先生がおっしゃるように色々な法人格にこだわらずに法人格の団体の活動が活発化してくると思います。

その場合、「寄附」に関する指標があっても良いと思います。

事務局

寄附金額については、市として各団体に任意で聞くことは出来ても、強制的に調査はできません。

そのため、現状で正確な寄付金額を把握することは非常に難しくなっています。

山本副会長

NPO法人は、毎年、財務諸表を提出しますよね。活動計算書にも寄付金額が必ず記載されると思います。抽出調査でも良いと思いますが。

事務局

認定法人に関しては寄付金額っていうのは毎年正確に出します。

NPO法人の活動計算書は、国が示している様式がありますが、中身の表記の方法については決まりがありません。

そのため、寄附金という項目を記載していない場合もあります。

津富委員

それを拾うしかないんじゃないですか。

事務局

まとまった大きな金額が入る年と入らない年があって、バラつきが出ることがあります。

ただ、寄付金額を指標にする意義は理解しています。

大西会長

第2次計画の指標に「ボランティア数」があって、第3次計画にはありませんが、これはどういうことですか。

事務局

これまで指標としていた「ボランティア数」の根拠は、市社会福祉協議会のボランティア登録数のため、市として直接取れない数字でもあり、今回は外しています。

ただ、指標にはしませんでしたが、ボランティアに関する数字は、別な形で追っていくつもりでいます。

井野委員

今回、示されている指標は全て右肩上がりの設定ですが、右肩上がりでない設定方法でも良いと思います。

黒田委員

銀行で指標を作るとき、最終目標を設定します。

その場合、最終目標を決める理由、例えば、「人数」、「市場占有率」、「価格競争」、「イニシアチブを取れるか」などを検討し、3年なりの期間を決め、そこから逆算して、1年、半年などの目標を設定していきます。

その場合、時代の流れによっては、指標を下げていくこともあります。

津富委員

もし右肩上がりの指標を作るのであれば、一般市民にアンケート調査をして、「市民活動をしている人の比率」を図るなどは良い指標になると思います。

大西会長

最後に、この2年間、委員の皆さまから本当に色々なアイデアをいただいたり、時には紛糾するようなアイデアまで出していただきました。

常に皆さま様々な経験のもと、多くの御議論をいただきましたこと、本当に感謝しています。ありがとうございました。

本日の議論を終了させていただきます。

事務局

事務連絡

今後の第3次計画策定スケジュール（予定）を説明。

（以上、会議終了。）